

油流出災害に対する インドネシアの対応戦略

発表者:

バユ・サトヤ

LEADERSHIP LIMITED

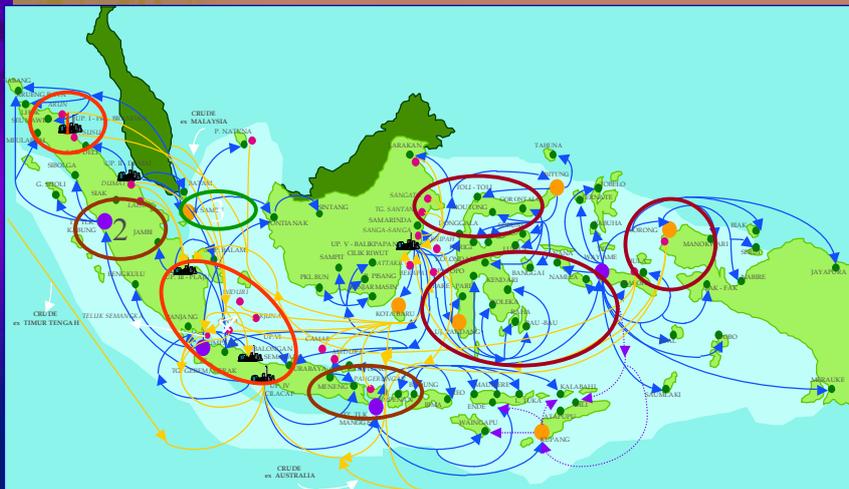
インドネシア、ジャカルタ

インドネシアの基礎知識



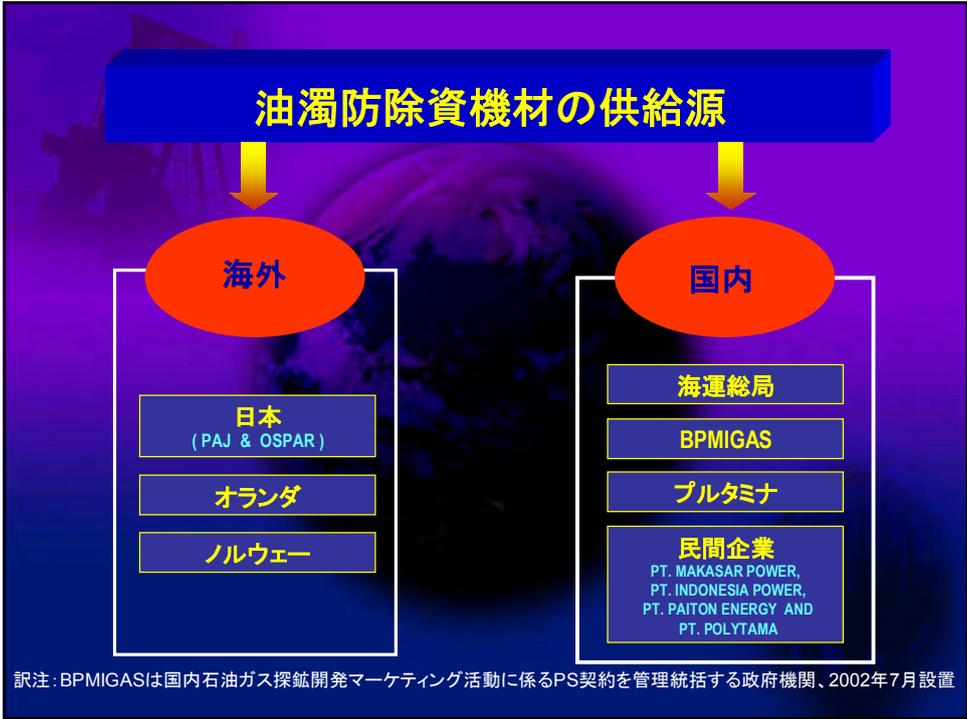
- 人口2億4千万人超。
- 17,000以上の島嶼。
- 300以上の方言。
- 総延長81,000 kmの海岸線。
- インドネシア領の85 %は水域。
- サバンからマラウケまで飛行機で6時間。

海上輸送によるインドネシアでの原油と石油製品の供給 および配送システム



インドネシアにおける原油と石油製品の供給 および配送システム

- 船舶から船舶への移送 (STS) 用区域5ヶ所
- 中継基地5ヶ所
- 一点係留ブイ (SBM) 10ヶ所
- 海域、海岸および陸地における探査82ヶ所
- 操業中のプラットフォームは2,000km以上のパイプライン網、ナツナ では近い将来3,000kmが追加される予定
- 海岸、洋上および川に沿っての石油用棧橋150ヶ所
- 高機能と考えられる港湾36ヶ所
- 大型製油所6ヶ所
- 大規模油田20ヶ所
- 大規模油槽所44ヶ所



OSPAR資機材の写真

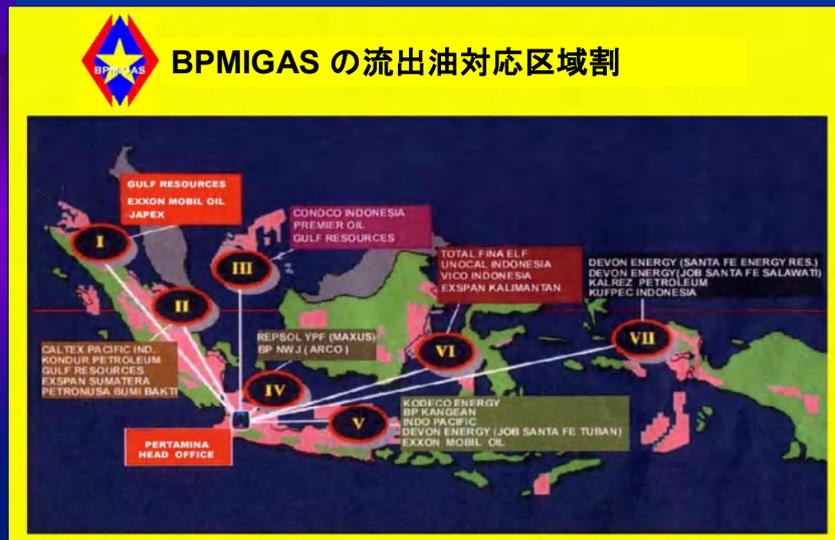


OSPAR資機材の写真





インドネシアにおける油濁防除資機材の等級区分





プルタミナ – 国営石油会社の流出油対応区域割



区域 VI の 資機材 東カリマンタン

企業	海洋型 オイルフェンス	油回収機 能力
CHEVRON INDONESIA CO	800 メートル	5 x 100トン / 時間
TOTAL E&P INDONESIE	1,900 メートル	3 x 100トン / 時間 2 x 100トン / 時間
VIRGINIA OIL COMPANY	0	1 x 100トン / 時間
PT PERTAMINA PERSERO パルクパパン	400 メートル	2 x 100トン / 時間
OSPAR	1,750 メートル	2 x 100トン / 時間
資機材合計	4,850 メートル	1,500トン / 時間

インドネシアにおける石油流出事故の写真



河川における油濁事例

インドネシアにおける油流出事故の写真



陸上における暴噴、地上に10トン／時の油が流出



南スマトラ、プラブムリでの暴噴

インドネシアにおける油流出事故の写真



バリクパパンでの油流出事故

海洋生物に対する油汚染の影響



暴噴後の陸上における環境被害



陸上における油流出災害



油流出対応に関する我々の責務



ジャワ海でのTIER 2演習



アチェでのTIER 1訓練・演習

油流出対応に関する我々の責務



バリクパパンでの訓練・演習



バリクパパンでのTier 1訓練



2006年にスラバヤで実施されたMARPOLEXの演習・訓練

油流出対応と準備体制に関する我々の責務



地域 VII における油流出対応演習



結論

1. インドネシアにおける油流出の防止と緊急時対策を実施し、美しい海浜に被害を与え海洋生物と海洋財産に損害を及ぼす可能性がある油流出災害を防止することは我々の責務である。
2. インドネシアは、日本が油流出災害に対応するわが国の戦略と準備体制の整備に高い関心を持っていることを認識しており、インドネシアとそのパートナー諸国のための油流出災害の防止あるいは油流出災害への対応に関する協力を、特に日本と間で進展させるべきである。
3. MARPOLEXのような相互協力に基づくインドネシアと他国との石油流出に関する合同の演習・訓練およびその他のプログラムを定期的かつ専門的に実施しなければならない。
4. 日本はインドネシアに対する油濁防除資機材の最大の贈与国であると同時に、インドネシアにおける石油流出対策の整備にも非常に注目している。したがって、このような貴重な機会を借りて、インドネシア国民のために皆様に「ARIGATO GOZAIMASU」と申し上げたい。ありがとうございました！

ご清聴を心から感謝いたします。